SONY

2-653-083-**03**(1)

ホームシアターシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HT-SL800W

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主にリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。同じボタンなら本体でも操作できます。
使うボタンの位置については「各部の名前と働き」（5、7ページ）で確認してください。

本機はドルビー *デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
  以下が米国AACパテントナンバーです。
  Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5 400 433; 5,222,189; 5,357,594; 5 752 225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5 297 236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844

**Digital Theater Systems,Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems,Incの商標です。

目次

接続と準備

つないだ機器の音を聞く

その他の操作・設定をする

その他

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキから近い所。
  (テレビやビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、サブウーファーおよびスピーカースタンド（別売り）などを置くときは、変色、染みなどが残ることがあります。

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。やけどなどのけがの原因になります。
また、密閉した場所で使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しの良い所でお使いください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めるおそれがありますので使わないでください。

ステレオを楽しむときのエチケット

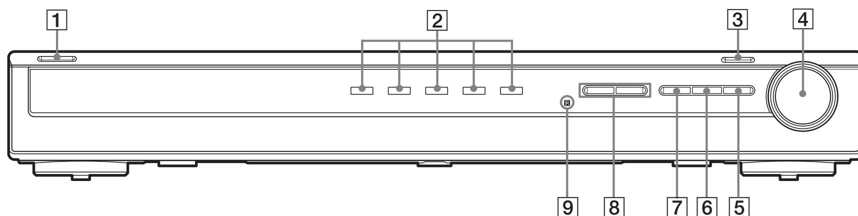


ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

各部の名前と働き

カッコ内に参照ページの記載がある項目は、そちらも合わせてご覧ください。

本体前面



1 I/⏻（電源スイッチ）
本機の電源を入れます。

2 入力ランプ
現在選択されている入力が点灯します。

3 INPUT SELECTORボタン
つないでいる機器に合わせて、入力を切り換えます。

4 MASTER VOLUMEつまみ
音量を調節します。

5 MUTINGボタン
音声を一時的に消すときに押します。

6 SOUND FIELDボタン（24ページ）
サウンドフィールドを選ぶときに押します。

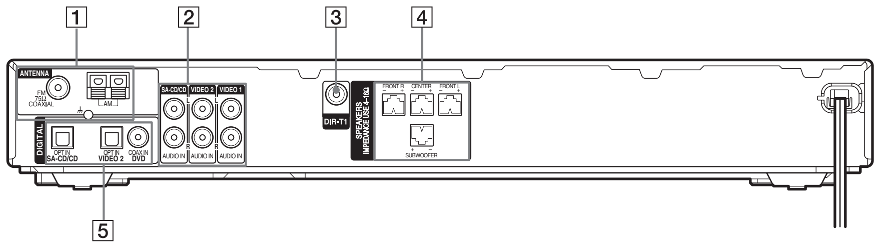
7 ◻◻PLII ボタン（23ページ）
サウンドフィールドでドルビープロロジック II を働かせるときに押します。

8 PRESET TUNING +/−ボタン（33ページ）
登録した放送局を選ぶときに使います。

9 リモコン受光部

次のページへ続く

本体後面



1 アンテナ端子

FMアンテナ、AMループアンテナと接続します。

2 AUDIO IN（アナログ音声入力）端子

SA-CD/CD	スーパーオーディオCDやCDプレーヤーとの音声出力端子を接続します。
VIDEO2	テレビや衛星放送チューナーとの音声出力端子を接続します。
VIDEO1	ビデオデッキの音声出力端子を接続します。

3 DIR-T1端子

発光ユニットDIR-T1（付属）を接続します。

4 スピーカー端子

本機に付属のスピーカーとスピーカーコードでつなぎます。スピーカーコードを交換するときは、「スピーカーコードを交換する」（18ページ）をご覧ください。

5 DIGITAL（デジタル）端子

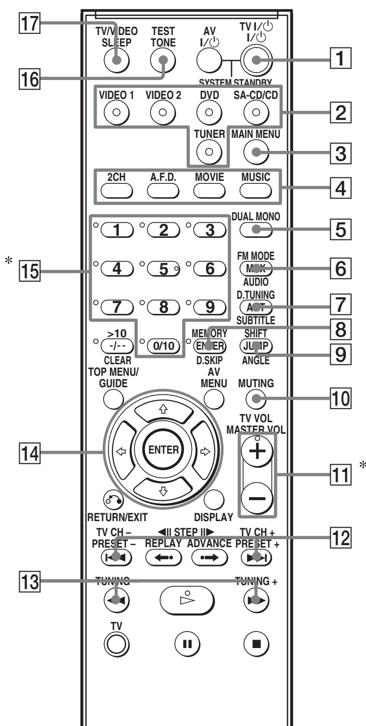
SA-CD/CD	OPT IN	スーパーオーディオCDやCDプレーヤーとのOPTICAL（光デジタル）端子と接続します。
VIDEO 2	OPT IN	テレビや衛星放送チューナーなどのOPTICAL（光デジタル）端子と接続します。
DVD	COAX IN	DVDレコーダー /プレーヤーのCOAXIAL（同軸）端子と接続します。

SA-CD/CDとVIDEO2の入力について

本機のSA-CD/CD、VIDEO2の入力端子は、アナログ、デジタル端子の両方に他機器を接続することができます。その場合、デジタル端子から入力されている機器の信号を優先的に出力します。
アナログ端子を優先するように設定を変えたい場合は、「その他の設定をする」（30ページ）をご覧ください。

リモコン

このページは、アンプを操作するためのボタンを説明します。
ソニー製の他機を操作するためのボタンについては「リモコンでソニー製の他機を操作する」（35ページ）をご覧ください。



＊MASTER VOL＋ボタン、数字5ボタンには凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

1 I/⏻（電源スイッチ）
本機の電源の入/切を行います。

2 入力ボタン
アンプに入力されたソースを切り換えます。

3 MAIN MENUボタン（27ページ）
メニューを使ってさまざまな設定を行います。

4 2CHボタン（23ページ）
サウンドフィールドを、2チャンネルステレオに切り換えます。

A.F.D.ボタン（23ページ）
サウンドフィールドを、オートフォーマットダイレクトなどに切り換えます。

MOVIE、MUSICボタン（24ページ）
サウンドフィールド（映画用：MOVIE、音楽用：MUSIC）を選びます。

5 DUAL MONOボタン（26ページ）
デジタル放送などで二重音声番組のときに、主音声/副音声などを切り換えます。

6 FM MODEボタン（32ページ）
ＦＭラジオ放送の音声をモノラル/ステレオに切り換えます。

7 D.TUNINGボタン（32ページ）
手動でラジオ放送局を受信するときに使います。

8 MEMORYボタン（33ページ）
ラジオ放送局を登録するときに押します。

9 SHIFTボタン（33ページ）
プリセットしたラジオ放送局を直接選択するときに使います。

10 MUTINGボタン
音を一時的に消します。

11 MASTER VOL ＋/－ ボタン
音量を調節します。

12 PRESET ＋/－ボタン（33ページ）
ラジオ放送局を登録するときに、プリセット番号を選びます。

13 TUNING ＋/－ボタン（32ページ）
ラジオ放送局を受信するときに使います。

14 ↑/↓/←/→/ENTERボタン

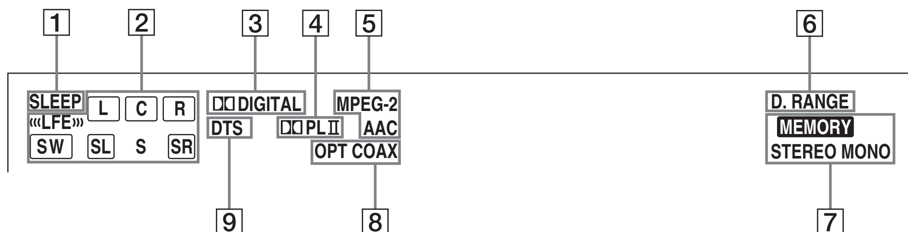
15 数字ボタン（32ページ）
SHIFTボタンと一緒に、ラジオ放送局を登録するとき、またはプリセットしたラジオ放送局を直接選択するときに使います。D.TUNINGボタンと一緒に、手動でラジオ放送局を受信するときに使います。

16 TEST TONEボタン
テストトーンを行うときに使います。

17 SLEEPボタン（34ページ）
スリープタイマーを使って、本機の電源が自動的に切れるまでの時間を設定します。

次のページへ続く

表示窓



1 SLEEP（34ページ）
スリープ機能が働いているときに点灯します。

2 再生チャンネル表示
現在再生しているチャンネルを表示します。チャンネルの略称は次のとおりです。
L：フロント左
R：フロント右
C：センター
SL：サラウンド左
SR：サラウンド右
S：サラウンド（モノラル/プロロジック処理されたサラウンド成分）
SW：サブウーファー
LFE：再生中のディスクにLFE（低音増強）のチャンネルが存在している、または実際にLFE信号再生されているときに点灯します。

3 DIGITAL（23ページ）
ドルビーデジタル信号をデコードしているときに点灯します。

4 PRO LOGIC（23ページ）
2チャンネル信号をドルビープロロジック処理しているときに点灯します。

PRO LOGIC II（23ページ）
2チャンネル信号をドルビープロロジックII処理しているときに点灯します。

5 MPEG-2 AAC
MPEG-2 AAC信号をデコードしているときに点灯します。

6 D.RANGE（32ページ）
ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します。

7 STEREO/MONO（32ページ）
MEMORY（33ページ）
ラジオ放送を聞いているときや、操作しているときなどに点灯します。

8 OPT
SA-CD/CDまたはVIDEO2を選んでいるときに、デジタル信号がOPT IN端子から入力されていると点灯します。

COAX
DVDを選んでいるときに点灯します。

9 DTS
DTS信号をデコードしているときに点灯します。

ご注意
ドルビープロロジック、ドルビープロロジックIIは、DTS、MPEG-2 AACフォーマットの信号には働きません。

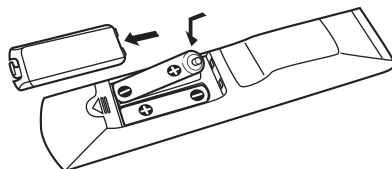
箱から出したら

次の付属品がそろっているかを確認してください。そろっていない場合は、お買い上げ店またはソニーサービス窓口へご連絡ください。

- FMワイヤーアンテナ（1）
- AMループアンテナ（1）
- スピーカー接続ガイド（1）
- 同軸デジタルコード（1）
- サブウーファー用パッド（4）
- リモコン（1）
- 単3型乾電池（2）
- フロントスピーカー（2）
- センタースピーカー（1）
- サラウンドスピーカー（2）
- サブウーファー（1）
- スピーカーコード（4）
- 発光ユニット（1）
- ご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）

リモコンに電池を入れる

＋と－の向きを合わせて、単3型乾電池（付属）を2個入れます。



ちょっと一言

乾電池の寿命は約6か月です。残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換してください。

ご注意

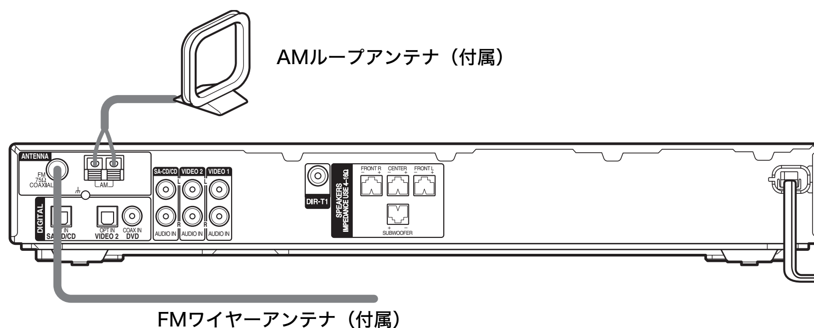
- 高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。液漏れや破損のおそれがあります。

接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。

準備1：アンテナを接続する

ラジオを聞くために、付属のAM/FMアンテナをつなぎます。

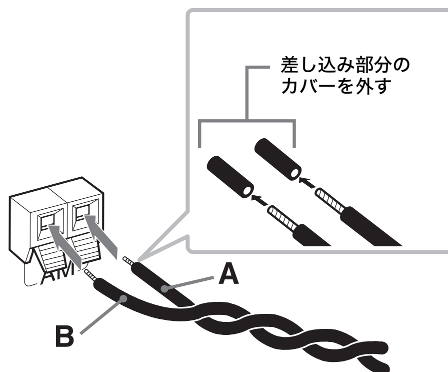


ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使用しないでください。
- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、できるだけ水平に張ってください。

ちょっと一言

- AMループアンテナは、コード（A）（B）をどちらの端子にも接続できます。
- AMループアンテナは、差し込み部分のカバーを外してからつないでください。



準備2：デジタル音声出力端子のある機器を接続する

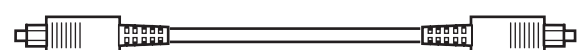
お手持ちのDVDプレーヤーやその他の機器（“プレイステーション 2”やCDプレーヤー、MDデッキ、デジタル衛星放送チューナーなど）にデジタル音声出力端子がある場合は、本機のデジタル音声入力端子に接続して、映画館のようなマルチチャンネルサラウンド音声をお楽しみいただけます。
DVDプレーヤーや“プレイステーション 2”の映像出力端子は、テレビの映像入力端子に接続します。

ご注意

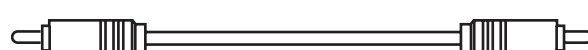
本機にビデオ信号を入力することはできません。ビデオ機器（ビデオデッキやテレビなど）を接続するときにはビデオ機器の映像出力端子をテレビの映像入力端子に接続してください。

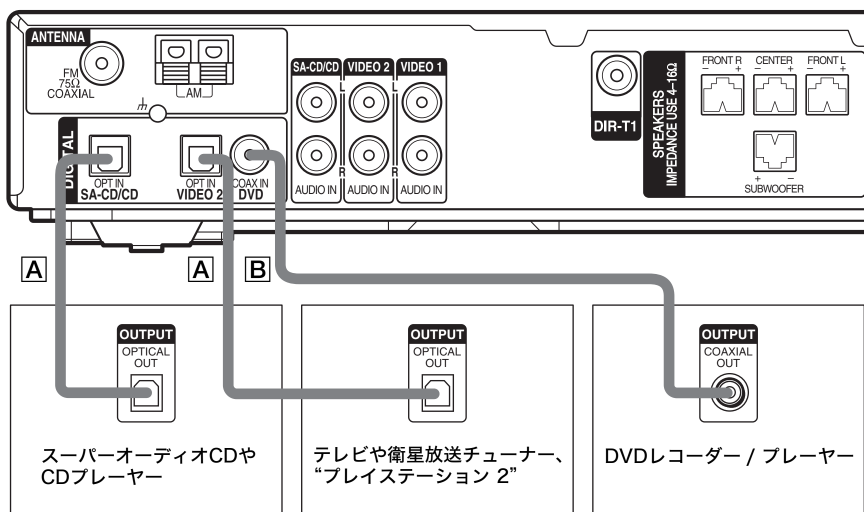
必要な接続コード

A 光デジタルコード（別売り）



B 同軸デジタルコード（付属）





ちょっと一言

- 本機のOPTICAL端子/COAXIAL端子は、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。
- “プレイステーション 2”は、VIDEO2またはSA-CD/CDのDIGITAL OPT IN端子につなぎます。

次のページへ続く

ソニー製DVDプレーヤーまたは“プレイステーション 2”を使うには

前ページでDVDプレーヤーまたは“プレイステーション 2”を接続したときは、各機器側で次の設定を行ってください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤー

1 設定画面で「オーディオ設定」を選択する

2 「オーディオDRC」を「ワイドレンジ」にする

3 「音声デジタル出力」を「入」にする

4 「ドルビーデジタル」を「ドルビー入」にする

5 「DTS」を「入」にする

“プレイステーション 2”

1 設定画面で「オーディオ設定」を選択する

2 「音声デジタル出力」を選択する

3 「光デジタル出力」を「入」にする

4 「ドルビーデジタル」を「入」にする

5 「DTS」を「入」にする

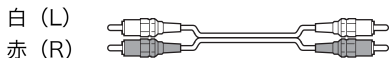
準備3：ビデオ機器を接続する

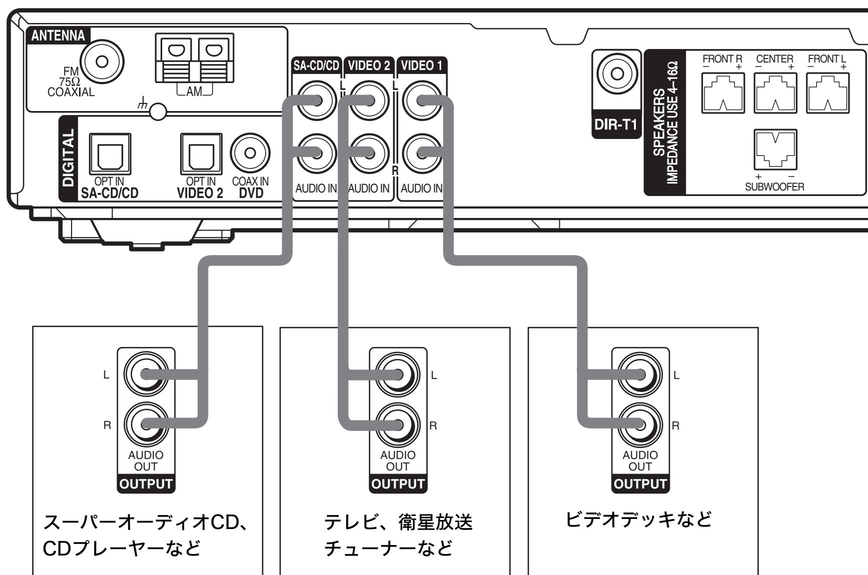
必要な接続コード

音声コード（別売り）

白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。

白（L）
赤（R）





ご注意

- 本機にビデオ信号を入力することはできません。ビデオ機器（ビデオデッキやテレビなど）を接続するときにはビデオ機器の映像出力端子をテレビの映像入力端子に接続してください。
- テレビの音声出力端子が1個しかない場合は、別売りのオーディオ接続コード（モノラルーステレオ変換）でつないでください。テレビに音声出力端子がない場合は本機に接続できません。
- テレビの音はフロントスピーカー（L/R）とサブウーファーから出ます。サラウンドスピーカーから音を出すときには、サウンドフィールドを選んでください。（23ページ）

ちょっと一言

“プレイステーション 2”は、VIDEO2またはSA-CD/CDのAUDIO端子につなぎます。

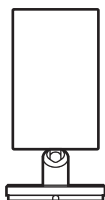
準備4：スピーカーを接続する

付属のスピーカーをつなぎます。本体のスピーカー端子、付属のスピーカーコードはプラグとカラーチューブ、スピーカーはカラーラベルでそれぞれ色分けしてあります。同じ色どうしをつないでください。付属のスピーカー以外のスピーカーは、接続しないでください。
最適なサラウンドサウンドを楽しむために、スピーカー設定を正しく行ってください（27ページ）。

ワイヤレスシステムを設置するために必要なもの

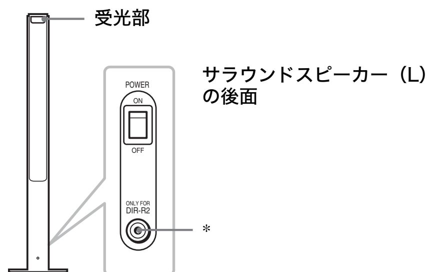
発光ユニット

赤外線でリアチャンネルのサウンドをサラウンドスピーカー（L）に送信します。
発光ユニットは本機に接続します。



サラウンドスピーカー（L）

サラウンドスピーカー（L）は、受光ユニットを搭載しています。発光ユニットから送信されたサウンド信号を受信して、サラウンドスピーカー（R）に送ります。
サラウンドスピーカー（R）を接続します。

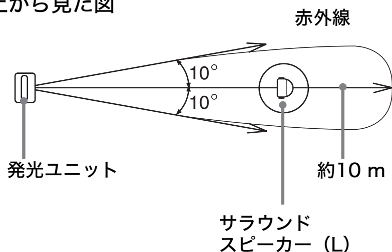


* 受光ユニットDIR-R2（別売り）を接続するための端子です。発光ユニットとサラウンドスピーカー（L）との間に障害物があるときや、スピーカーの配置によって、赤外線の受信がうまくいかないときにお使いください。詳しくは、お買い上げ店、または同梱の「ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

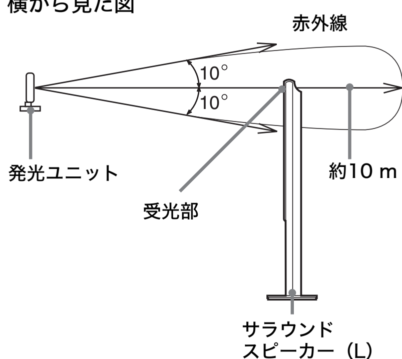
ワイヤレスシステムについて

本機のワイヤレスシステムは、デジタル赤外線伝送方式（Digital Infrared Audio Transmission）を採用しております（46ページ）。
赤外線の届く範囲は、おおよそ下図のとおりです。

上から見た図



横から見た図



ご注意

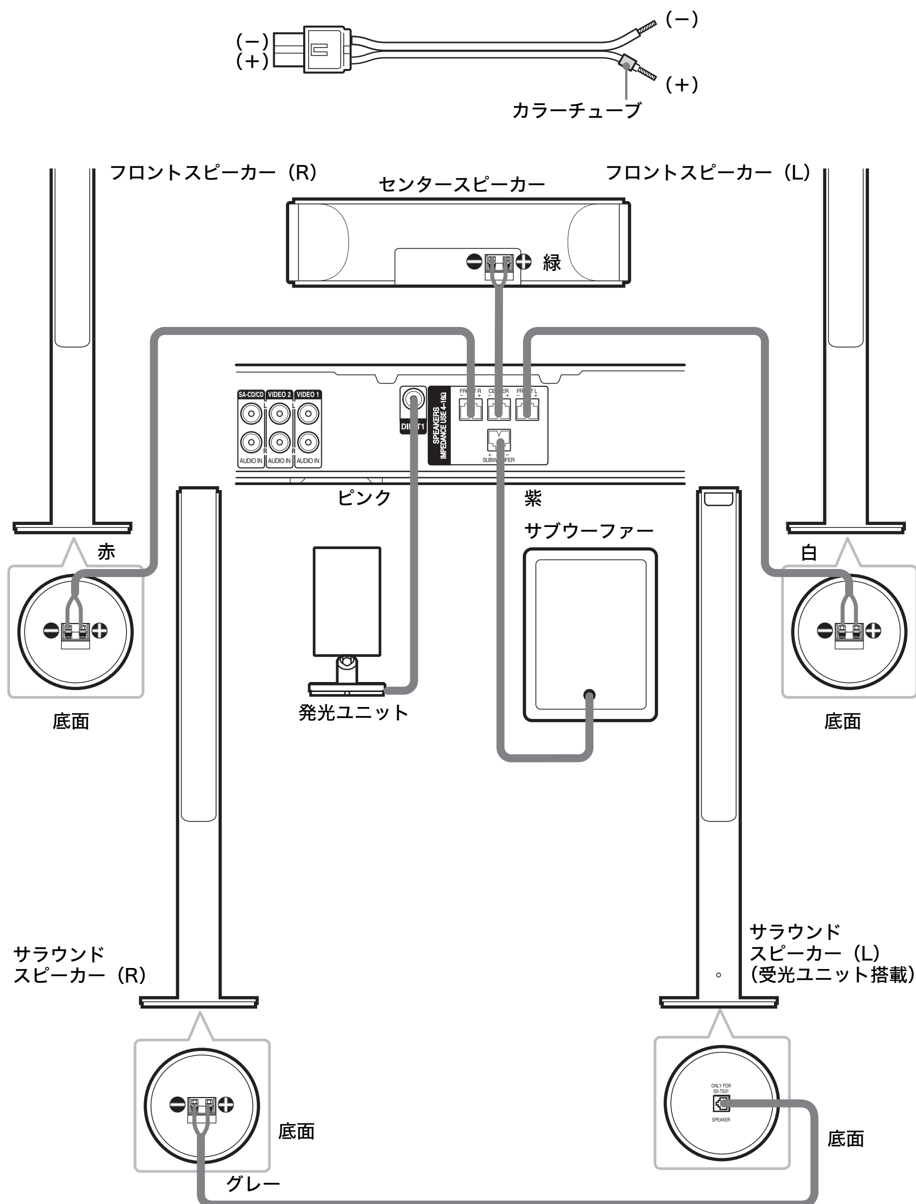
- サラウンドスピーカー（L）は、直射日光や照明などの強い光が当たる場所には置かないでください。
- サラウンドスピーカー（L）は、同梱以外のものを使用しないでください。

次のページへ続く

スピーカーをつなぐ

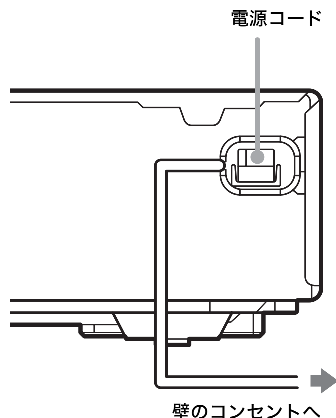
スピーカーコード（付属）

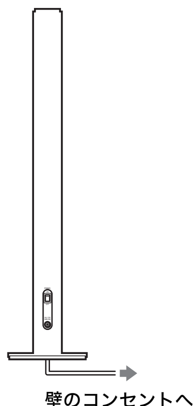
スピーカーコードの先端の（＋）側に付いているカラーチューブは、つなぐスピーカーのカラーラベルと同じ色になっています。



準備5：電源コードを接続する

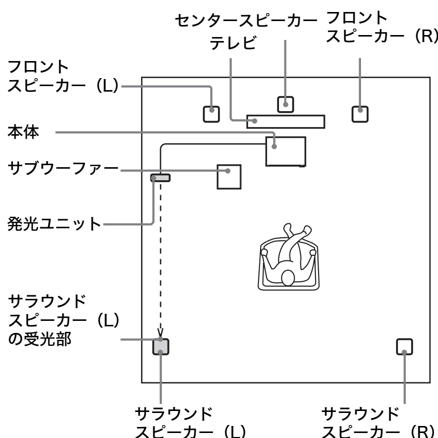
すべての機器を接続した後、本機とサラウンドスピーカー（L）の電源コードを壁のコンセントに接続します。





準備6：ワイヤレスシステムを設置する

スピーカー、発光ユニット、電源コードなどをつないでから、赤外線の送受信がうまくいくように、ワイヤレスシステムの設置、調整をします。
下図のように、発光ユニットとサラウンドスピーカー（L）の受光部が一直線上に向かい合うように設置します。



1 本体の電源を入れる

2 サラウンドスピーカー（L）の電源を入れる

POWER/ON LINEランプが緑色に点灯します。
POWER/ON LINEランプが赤色に点灯したときは、発光ユニットの位置を調整してください。

接続と準備

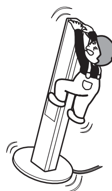
次のページへ続く

サラウンドスピーカー（L）および発光ユニット設置上のご注意

- 発光ユニットおよびサラウンドスピーカー（L）は、直射日光や照明など、強い光が当たる場所には置かないでください。赤外線が正常に受信できないことがあります。
- 発光ユニットのケーブル（DIATケーブル）は本機専用です。市販の延長ケーブルなどはご使用にならないでください。
- 発光ユニットとサラウンドスピーカー（L）との間に、人や物など障害物が入らないように設置してください。サラウンドスピーカーからの音声が途切れることがあります。
- サラウンドスピーカー（L）のPOWER/ON LINEランプが赤く点滅したときは、他のソニー製品の赤外線を受信しています。このようなときは、他の機器の電源をお切りください。

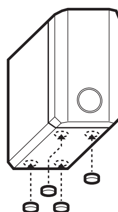
スピーカー設置上のご注意

- 以下のような場所には置かないでください。
  - ー 傾いた所。
  - ー 極端に温度が高い所または低い所。
  - ー ほこりの多い所。
  - ー 湿気の多い所。
  - ー ぐらついた台の上など。
  - ー 直射日光が当たる所
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に、サブウーファーおよび、フロント/サラウンドスピーカーを置くときは、床に変色、染みなどが残ることがあります。
- スピーカーにもたれたり、ぶらさがらないでください。転倒のおそれがあります。



スピーカーを安定させる

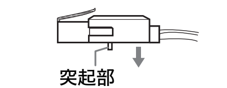
聞いているときにスピーカーが振動したり移動したりしないように、サブウーファーを設置する前に付属のサブウーファー用パッドを、サブウーファーの底面の四隅に貼ってください。



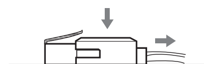
スピーカーコードを交換する

スピーカーコードの長さや種類を変えたいときは、スピーカーコードをスピーカープラグから外して交換します。

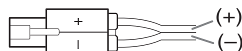
1 スピーカープラグを平らなところに押しつける。
まん中の突起部が下側になるようにします。



2 上から押したままスピーカープラグからスピーカーコードを引き抜く。



3 使いたいスピーカーコードの先端の被覆を約10 mmはがしてねじる。上から押したままスピーカープラグに差し込む。
極性に合わせて＋は＋どうし、ーはーどうしで正しく差し込んでください。



スピーカーコードを軽く引っ張り、抜けないことを確認してください。

スピーカーコードについてのご注意

スピーカーコードがスピーカープラグから抜けないよう、以下の点にご注意ください。

ー細いスピーカーコードを使わないでください。AWG24からAWG18までの太さのスピーカーコードをおすすめします（外径：直径1.5 mm～3 mm、芯線：直径0.5 mm～1.1 mm）。

ーすべてのスピーカーに同じ太さのスピーカーコードをお使いください。

ースピーカーコードの先端はねじっておいてください。

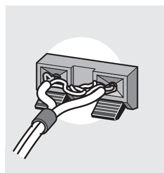
ースピーカープラグの後部からしっかりとスピーカーコードを差し込んでください。

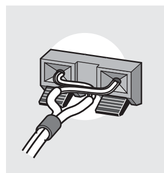
スピーカーのショートを防止する

スピーカーコードをショートさせると本機及びスピーカーを損傷したり、トラブルが発生することがあります。

他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

スピーカーコード接続の悪い例



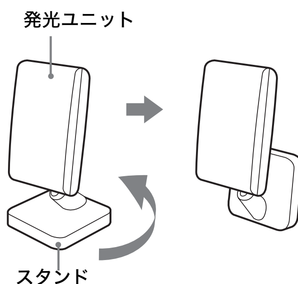


発光ユニットを壁にかけて使う

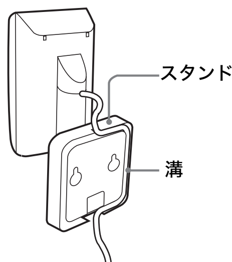
発光ユニットとサラウンドスピーカー（L）の間を人が横切ることが多いときなどに、発光ユニットを壁に設置して使えます。

発光ユニットを壁に設置する

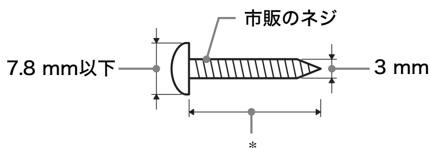
1 発光ユニットのスタンドを背面に回す。

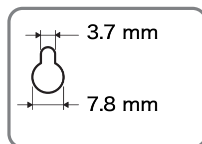


発光ユニットのコードは、スタンド底面の溝に収納してください。



2 発光ユニット背面のネジ穴に合う市販のネジを2個用意する。



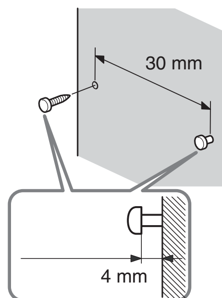


発光ユニット背面のネジ穴

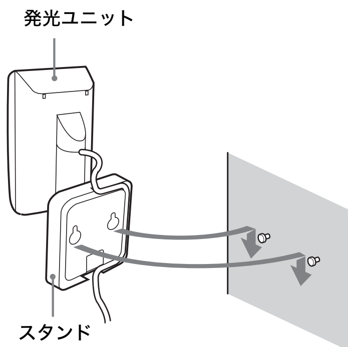
* 使用するネジの長さは、壁の材質や強度に合ったものをお使いください。詳しくは、ネジの販売店などにご相談ください。

次のページへ続く

3 ネジが壁から4 mm程度出るように取り付ける。
2個のネジは床に対して平行に、30 mmの間隔をあけて取り付けます。



4 スタンド底面の穴をネジにかけて、壁にかける。
壁にかけたあとは、発光ユニットがしっかり取り付けられていることを確認してください。



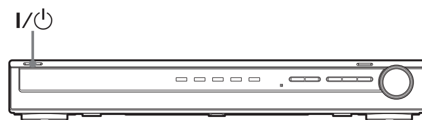
発光ユニットを壁に設置する際のご注意

- 発光ユニットに服などのものをかけないでください。
- お子様などがぶらさがらないようにご注意ください。
- 壁の材質や強度に合ったネジをお使いください。
- 強度の弱い壁には取り付けないでください。
- 本体からコードを抜き差しするときは、発光ユニットを壁から取り外してください。
- 取り付け方法の不備、取り付け場所の強度不足、誤使用、天災などによる不慮の事故や災害、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

準備7：設定/接続を確認する

本機を初期設定状態にする

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。
また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。



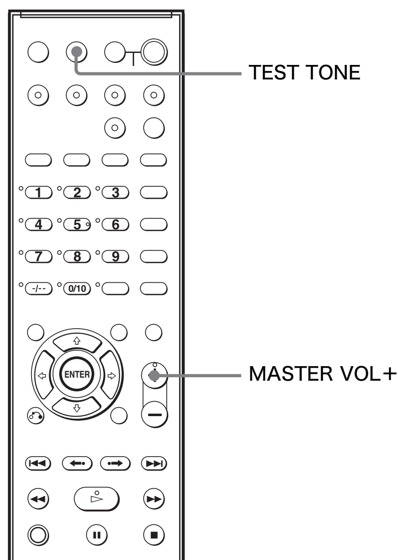
1 電源が入っているときは I/⏻（電源スイッチ）を押して、本体の電源を切る

2 本体のI/⏻（電源スイッチ）を約5秒以上押し続ける

「INITIAL」と表示されます。下記がお買い上げ時の状態に戻ります。

- SET UP、LEVEL、TONEの各メニューで設定した内容
- サウンドフィールドの設定
- 登録した放送局
- 入力や登録した放送局ごとに記憶したサウンドフィールド
- 音量（最小になります）

すべてのスピーカーから音が出ているか確認する



1 **TEST TONEを押す**

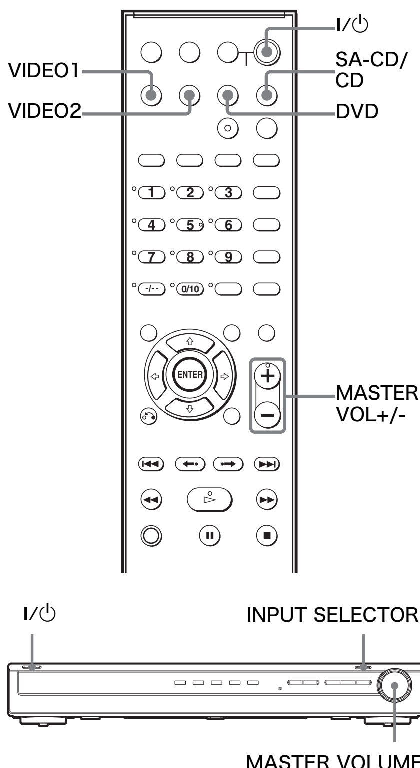
各スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。
フロント（左）→ センター → フロント（右）→ サラウンド（右）→ サラウンド（左）→ サブウーファー
テストトーンを出力中、何も聞こえなかったり、本機の表示窓に表示されているスピーカー名と異なるスピーカーからテストトーンが出たときは、スピーカーコードがショートしているか、誤配線のおそれがあります。このときはもう一度スピーカーコードの接続を確認してください。

2 **MASTER VOL ＋を押して、音量を調整する**

3 **TEST TONEをもう一度押して、テストトーンを消す**

つないだ機器の音を聞く

機器を選ぶ



1 本体の電源を入れる

2 入力ボタンを押す

本体で選ぶときはINPUT SELECTORを繰り返し押します。

見たい、聞きたい機器	押すボタン
DVDプレーヤー	DVD
テレビ、衛星放送チューナー または“プレイステーション 2”	VIDEO2
ビデオデッキ	VIDEO1
スーパーオーディオCDまたはCDプレーヤー	SA-CD/CD

3 機器の電源を入れて、再生する

ビデオデッキやDVDプレーヤーなどのテレビに接続する機器を選んだときは、テレビの電源を入れて、入力を切り換えてください。

4 MASTER VOL +/−を押して、音量を調節する

本体で調節するときは、MASTER VOLUMEを回します。

音を一時的に消したいときは

MUTINGを押す。

DVDプレーヤー（別売り）でDVDを再生する

DVDプレーヤーや“プレイステーション 2”を接続したときは、DVDをお楽しみいただけます。

1 DVDを押す

“プレイステーション 2”で再生するときは、VIDEO2を押します。

2 テレビの入力を選ぶ

詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 DVDプレーヤーまたは“プレイステーション 2”にDVDを入れる

4 DVDを再生する

ホームシアターを楽しむ

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選んで、好みのサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感が再現できます。

フロントスピーカーとサブウーファーで聞く
ー2CH STEREO

フロントL/Rの2本のスピーカーとサブウーファーの3本のみから音を出します。CDなどの標準的な2チャンネル音声や、5.1チャンネルで記録された音声を、フロントスピーカーとサブウーファーで再生するときなどに選んでください。

2CHを押して、「2CH ST.」を選ぶ

原音に忠実な音で聞く
ーオートフォーマットダイレクト（A.F.D.）

視聴するソースの音声信号の種類（ドルビーデジタル、DTS、2チャンネルステレオ音声など）を自動的に判別し、再生します。音声には残響などの効果を加えず、録音またはエンコードされたままの音を再生します。

A.F.D.を押して、「A.F.D. AUTO」を選ぶ

2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞く

2チャンネルで入力された音声を、ドルビープロロジックIIでは5.1チャンネルで、ドルビープロロジックでは4チャンネルで聞くことができます。

A.F.D.を繰り返し押して、「DOLBY PL」、「PLII MOV」「PLII MUS」または「MULTI ST.」を選ぶ

■ DOLBY PL（ドルビープロロジック）
2チャンネルで記録されている音を4チャンネルに変換して再生します。

■ PLII MOV（DOLBY PL II ムービー）
ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンドで記録された映画音声の再生に適しています。また、吹替版やモノラル音声の古い映画も5.1チャンネルで再生できます。

■ PLII MUS（DOLBY PL II ミュージック）
ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど、ステレオ録音された音声の再生に適しています。

■ MULTI ST.（マルチステレオ）
フロント2チャンネルの音声を、すべてのスピーカーから出力します。このモードはパーティなどに適しています。

ご注意

入力されている音声信号がDTSまたはMPEG-2 AACのとき、ドルビープロロジック、ドルビープロロジックIIは選べません。

次のページへ続く

サラウンド効果を楽しむ

本機には、さまざまな音場（サウンドフィールド）効果がプログラムされています。視聴するソースに合わせて選び、サラウンドスピーカーで再生すると、映画館やコンサートホールにいるような臨場感をお楽しみいただけます。

映画館の音を楽しむ ーシネマスタジオEX

MOVIEを繰り返し押して、好みのサウンドフィールドを選ぶ

表示窓に、選んだサウンドフィールドが表示されます。それぞれのサウンドフィールドについて詳しくは、次の説明をご覧ください。

- サウンドフィールドを解除するときは、「サラウンド効果を解除するには」（25ページ）をご覧ください。
- サウンドフィールドの効果を調整したいときは「その他の設定をする」（30ページ）をご覧ください。

■ C.ST.EX A（シネマスタジオEX A）
DCS
ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。

■ C.ST.EX B（シネマスタジオEX B）
DCS
ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

■ C.ST.EX C（シネマスタジオEX C）
DCS
ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。

シネマスタジオEXとは
シネマスタジオEXは、次の3つの要素を同時に動作させ、統合させることで映画館の臨場感を再現しています。

- 「Virtual Multi Dimension」
（バーチャルマルチディメンション）
1組の実在するサラウンドスピーカーから、多数の仮想サラウンドスピーカーを生成します。
- 「Screen Depth Matching」
（スクリーンデプスマッチング）
映画館のように、音がスクリーンの中から出てくるような感覚を作り出します。
- 「Cinema Studio Reverberation」
（シネマスタジオリバーブレーション）
映画館独特の残響を再現します。

サウンドフィールドについてのご注意
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールドでは、エフェクトの効果によるノイズが入ることがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、サラウンドスピーカーからどんな音も直接は聞こえません。

音源に合わせたサウンドフィールドを楽しむ

MUSICを繰り返し押して、好みのサウンドフィールドを選ぶ

表示窓に、選んだサウンドフィールドが表示されます。それぞれのサウンドフィールドについて詳しくは、次の説明をご覧ください。

■ HALL（ホール）
長方形のコンサートホールの音響を再現します。クラシックの再生に向いています。

■ JAZZ（ジャズクラブ）
ジャズクラブの音響を再現します。

■CONCERT（ライブコンサート）
300席程度のライブハウスの音響を再現します。ロックやポップスの再生に向いています。

サラウンド効果を解除するには

A.F.D.を押して「A.F.D. AUTO」を選ぶ。または2CHを押して「2CH ST.」を選ぶ。

ちょっと一言

- 本体のSOUND FIELDボタンでもサウンドフィールドを切り換えることができます。
- 本機は、DVDやテレビなどの入力ごとに、最後に選んだサウンドフィールドを記憶します（サウンドフィールドリンク）。次にその入力を選ぶと、前回選んだサウンドフィールドが自動的に設定されます。
- DVDソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。
  - DOLBY DIGITAL：ドルビーデジタルでエンコードされているソフト
  - DOLBY SURROUND　DOLBY SURROUND：ドルビーサラウンドでエンコードされているソフト
  - DIGITAL dts SURROUND：DTSデジタルサラウンドでエンコードされているソフト
- サンプリング周波数96 kHzのデジタル信号が入力されたときは、「PCM 96kHz」と表示され、サウンドフィールドはオフになります。
- MPEG-2 AAC信号が入力されているときはサウンドフィールドはオフになります。本体のSOUND FIELDボタンやPLIIボタン、リモコンの2CHボタン、A.F.D.ボタン、MOVIEボタン、MUSICボタンを押しても、サウンドフィールドは選べません。
- LEVEL（レベル）とTONE（トーン）を設定すると、スピーカーの設置状況とお好みに合わせて、サウンドフィールドの効果をさらに細かく調節することができます。
  詳しくは「スピーカーの設定をする」（27ページ）をご覧ください。

サウンドフィールドをお買い上げ時の設定に戻す

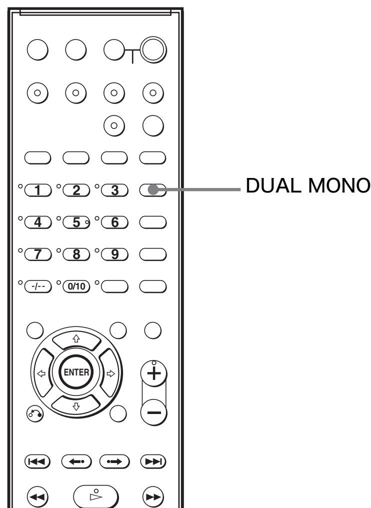
1 I/⏻（電源スイッチ）を押して電源を切る。

2 本体のSOUND FIELDを押しながら、I/⏻（電源スイッチ）を押す。
表示窓に「SF. CLR.」と表示され、すべてのサウンドフィールドがお買い上げ時の状態に戻ります。

2か国語放送を楽しむ

(DUAL MONO)

デジタル放送のMPEG-2 AAC二重音声などを聞くときの、再生モードを選べます。



DUAL MONOを押す

押すたびに、再生モードは次のように切り換わります。初期設定はM（主音声）です。

再生モード	再生する音声
M（主音声）	主音声のみ
S（副音声）	副音声のみ
M＋S（主音声＋副音声）	主音声と副音声が合成された音声を再生
M/S（主音声/副音声）	左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生

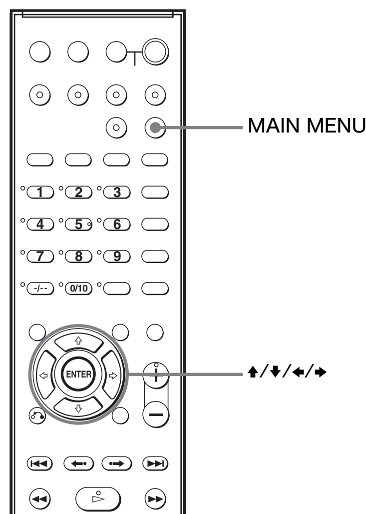
ご注意

デジタルチューナー側の設定で、デジタル出力を「AAC」または「オート」に切り換えてください。

音声と映像のずれを調節する

(A/V SYNC)

音声と映像がずれているときに、ずれを調節することができます。



1 MAIN MENUを繰り返し押して、「〈SET UP〉」を表示させる

2 ↑/↓ で「A.V. SYNC.」を選び、←/→ で設定する

押すたびに、以下のように切り換わります。初期設定はN（No）です。

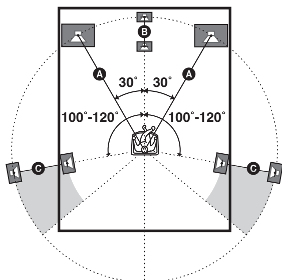
表示	できること
N（No）	A/Vシンク機能を使わない。
Y（Yes）	A/Vシンク機能を使って、音声と映像のずれを調節する。

スピーカーの設定をする

「準備4：スピーカーを接続する」（14ページ）にしたがって接続したあと、以下の設定を行います。
スピーカーの設定をすると、より効果的なサラウンドをお楽しみいただけます。

スピーカーを配置する

良質なサラウンド効果を充分に楽しむために、各スピーカーは下図を参考に配置してください。



スピーカーの配置に関するご注意
センタースピーカーとサラウンドスピーカーは、フロントスピーカーよりも遠くに置かないでください。

スピーカーの位置と高さを設定する

SET UPメニューで、スピーカーの距離や高さを設定します。
スピーカーの設置状況やお好みに合わせて、スピーカーまでの距離や高さを設定すると、本機がそのスピーカーからリスニングポジションまでの距離に適したタイミングで音声を出力します。
設定する距離は、必ずしもスピーカーまでの実際の距離と一致させる必要はありません。詳しくは「スピーカー設定のヒント」（28ページ）をお読みください。

1 **MAIN MENUを繰り返し押して、「〈SET UP〉」を選ぶ**

2 **↑または↓を押して、調節したい項目を選ぶ**

3 **←または→を押して、お好みの設定を選ぶ**

4 **手順2と3を繰り返し、必要な項目を設定する**

SET UPメニューの設定項目

■ L R DIST.（フロントスピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 m
リスニングポジションから左右のフロントスピーカーまでの距離（27ページ左図中A）を設定します。1.0 m～7.0 mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。
左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから等距離に設置されていないときは、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離で設定します。

次のページへ続く

■ C DIST.（センタースピーカーまでの距離）

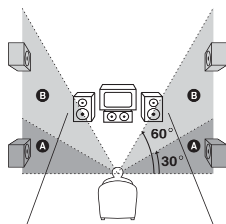
お買い上げ時の設定：3.0 m
リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。
フロントスピーカーの位置から1.5 mまでの範囲が（27ページ左図中B)、より良好なサラウンド効果が得られます。

■ SL SR DIST.（サラウンドスピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 m
リスニングポジションからサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。
フロントスピーカーと同じ距離（27ページ左図中A）からリスニングポジションに4.5 m近づける範囲が（27ページ左図中C)、より良好なサラウンド効果を得られる距離です。
左右のサラウンドスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■ SL SR PL.（サラウンドスピーカーの高さ）

お買い上げ時の設定：PL. LOW
シネマスタジオEX（24ページ）を選んだとき、サラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの高さを設定します。



- PL. LOW
  サラウンドスピーカーの高さが上図Aの範囲にあるときに選びます。
- PL. HIGH
  サラウンドスピーカーの高さが上図Bの範囲にあるときに選びます。

スピーカーを設置する距離について

スピーカーを適切に配置し、より良い状態で楽しんでいただくために、スピーカーの距離設定には次のような制限を設けてあります。

- センタースピーカーはフロントスピーカーより遠くには設定できません。また、フロントスピーカーより1.5 mを超えてリスニングポジションに近づけた設定もできません。
- サラウンドスピーカーも、フロントスピーカーより遠くには設定できません。また、フロントスピーカーより4.5 mを超えて近くにも設定できません。

スピーカー設定のヒント

実際の距離よりスピーカーの位置を近く設定すると、スピーカーが遠くに感じられるため、音がより広がって聞こえます。
例えば、センタースピーカーまでの距離を実際の距離より1〜2 m短く設定すると、音が画面の中から聞こえてくるように感じられます。これは、実際のスピーカーの距離と設定距離の違いにより、音の到達時間にわずかな時間差が生じるためです。
同じようにサラウンドスピーカーまでの距離が近すぎてサラウンド感が物足りないときは、サラウンドスピーカーの距離を実際の距離より短く設定すると、音場感が高まることがあります。
実際に音を聞きながら設定を変えて、お使いの状況にあった設定をお試しください。

スピーカーごとに音量や音質を設定する

お聞きの音源や選ばれているサウンドフィールド、またお好みに合わせて、出力される音量や音質を設定することができます。
設定方法は共通ですが、細かい設定項目と内容については、それぞれの説明をご覧ください。

- 「スピーカーごとの音量を調整する －LEVEL MENU」（29ページ）
- 「音質のバランスを調整する －TONE MENU」（30ページ）

1 **サラウンド効果の加わったマルチチャンネル音源で収録されているソース（DVDなど）を再生する**

2 **MAIN MENUを繰り返し押して、「〈LEVEL〉」（29ページ）または「〈TONE〉」（30ページ）を選ぶ**

3 **↑または↓を押して、調節したい項目を選ぶ**

4 **←または→を押して、お好みの設定を選ぶ**

スピーカーごとの音量を調整する －LEVEL MENU

スピーカーの設置状況や選んでいるサウンドフィールド、またお好みに応じてスピーカーごとに音量を調整できます。

LEVELメニューの設定項目

■ Ⓛ Ⓡ BAL. L/R（フロントスピーカーバランス）

お買い上げ時の設定：BALANCE
フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。L＋8～R＋8の範囲内で1段階ごとに調節できます。

■ CTR（センタースピーカーレベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
－10 dB～＋10 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

■ SUR.L.（サラウンドスピーカー（左）レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
－10 dB～＋10 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

■ SUR.R.（サラウンドスピーカー（右）レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
－10 dB～＋10 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

■ S.W.（サブウーファーレベル）

お買い上げ時の設定：0dB
－10 dB～＋10 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

次のページへ続く

音質のバランスを調整する
－TONE MENU

選ばれているサウンドフィールドやお好みに合わせて、低音・高音のいずれを強調するかを調整できます。

TONE メニューの設定項目

各項目の説明は次の通りです。

■ BASS（フロントスピーカーの低域レベル）

■ TREB.（フロントスピーカーの高域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
いずれも－6 dB～＋6 dBの範囲で、1 dB単位で調節できます。

ご注意
AACの再生時や、サウンドフィールドによっては効果が出ないことがあります。

その他の設定をする

SET UPメニューで、本機に接続した外部機器の入力端子の種類を設定したり、音声モードを設定したりできます。
LEVELメニューではサラウンド効果のさらに詳細な設定を行うことができます。

1. **MAIN MENUを繰り返し押して、「〈SET UP〉」または「〈LEVEL〉」を表示させる**
2. **↑/↓で調節したい項目を選び、←/→で設定する**
3. **手順1と2を繰り返して、設定項目をすべて設定する**

SET UPメニューの設定項目

下線の項目は、お買い上げ時の設定です。

■ VD2（VIDEO2の音声入力モードの選択）

入力がVIDEO2のときの音声入力モードを選びます。

- <u>AUTO</u>
  デジタル音声信号とアナログ音声信号が入力されたときはデジタル音声信号が優先されます。デジタル信号がない場合はアナログ音声信号が選ばれます。
- OPT
  DIGITAL VIDEO2 OPT IN端子に入力されたデジタル音声信号が選ばれます。
- ANLG
  VIDEO2 AUDIO IN（L/R）端子に入力されたアナログ音声信号が選ばれます。

■CD（SA-CD/CDの音声入力モードの選択）

入力がSA-CD/CDのときの音声入力モードを選びます。

- AUTO
  デジタル音声信号とアナログ音声信号が入力されたときはデジタル音声信号が優先されます。デジタル信号がない場合はアナログ音声信号が選ばれます。
- OPT
  DIGITAL SA-CD/CD OPT IN端子に入力されたデジタル音声信号が選ばれます。
- ANLG
  SA-CD/CD AUDIO IN（L/R）端子に入力されたアナログ音声信号が選ばれます。

■A.V. SYNC.（A/Vシンク）

音声と映像がずれているときにずれを調節することができます。

- N（No）
  A/Vシンク機能を使わない。
- Y（Yes）
  A/Vシンク機能を使って音声と映像のずれを調節する。

ご注意

- この機能は大画面の液晶、プラズマ、プロジェクションテレビでお楽しみいただくときに便利な機能です。
- この機能は2CHやA.F.D.ボタンによってサウンドフィールドが選択された場合に有効です。ただし、PCM 96 KHz、MPEG-2AAC、dts2048シグナルが入力されている場合は使えません。

■DUAL（二重音声の再生モード）

デジタル放送などの二重音声（MPEG-2 AAC）を聞くとき、再生モードを設定します。

- M/S（主音声/副音声）
  左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。
- M（主音声）
  主音声のみを再生します。
- S（副音声）
  副音声のみを再生します。
- M＋S（主音声＋副音声）
  主音声と副音声が合成された音声を再生します。

ご注意

デジタル放送や、ドルビーデジタルで記録された二重音声を再生するときにのみ働きます。

■DEC.（デジタル音声のデコード優先モード）

本機に入力されたデジタル音声の優先モードを設定します。
お買い上げ時、VIDEO2端子に入力されているときは、「DEC. AUTO」に、DVD端子やSA-CD/CD端子に入力されているときは「DEC. PCM」に設定されています。

- AUTO
  入力音声信号（DTS、ドルビーデジタル、PCM）に合わせて自動的に切り換えます。
  音楽CDなどを再生しているときに曲の頭が切れることがあります。その場合は「DEC. PCM」に設定してください。
- PCM
  PCM信号（DVDや音楽CDなどの信号）を優先して処理します。
  DTSCDを再生しているときにノイズが聞こえることがあります。その場合は「DEC. AUTO」に設定してください。

次のページへ続く

LEVELメニューの設定項目

■ D.RANGE COMP.（ダイナミックレンジの圧縮）

音声のダイナミックレンジを狭くします。

- OFF
  ダイナミックレンジの圧縮は行われません。
- STD（標準）
  ソフトに記録されたままの圧縮でサウンドトラックを再生します。
- MAX（最大）
  ダイナミックレンジを極端に狭めます。小音量でも映画の音声を聞き取りやすくします。

ご注意

ダイナミックレンジの圧縮はドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

■ EFCT.（エフェクトレベル）

お買い上げ時の設定：STD（標準）

サラウンド効果の大きさを設定します。「MAX」にするとサラウンド効果が大きくなります。「MIN」にすると、サラウンド効果が小さくなります。エフェクトレベルの設定は、サウンドフィールドごとに記憶されます。

ご注意

サウンドフィールドがC.ST.EX A～C、HALL、JAZZ、CONCERTのときに使用できます。その他のサウンドフィールドでは使用できません。

ラジオを聞く

内蔵のチューナーで、FM/AMラジオを聞くことができます。操作の前に、アンテナ を接続してください（10ページ）。

本機の周波数ステップは、FM：0.1 MHz、AM：9 kHzです。

自動で放送局を受信する

希望する放送局の周波数が分からないときは、本機が受信可能な放送局を探して自動的に受信します。

1 TUNERを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ

2 TUNING ＋/－を押す

TUNING＋を押すと高い周波数に、TUNING－を押すと低い周波数に向かって、受信できる放送局を自動的に探します。受信すると自動的に止まります。

他の放送局を探すときは

もう1度TUNING＋またはTUNING－を押します。

手動で放送局を受信する

リモコンの数字ボタンで、ラジオ局の周波数を直接入力します。

1 TUNERを繰り返し押して、FMまたはAMを選ぶ

2 D.TUNINGを押す

3 数字ボタンを押して、周波数を入力する

例1：FM81.30 MHz
8➔1➔3の順に押す（小数点や、最後の「0」は不要です）
例2：AM1350 kHz
1➔3➔5➔0の順に押す
AMラジオを受信したときは、AMアンテナの向きを受信状態の良い方向に変えてください。

入力した数字が点滅し、受信できないときは

手順2と3をもう1度行い、周波数を正しく入力してください。
それでも受信できないときは、お住まいの地域ではその周波数は受信できません。

ラジオの受信について

表示窓に「STEREO」が点滅しているときや、FMステレオ放送の受信状態が良好でないときはFM MODEを押して「MONO」を表示させます。受信する音声はモノラルになりますが、雑音が減り聞きやすくなります。ステレオ音声に戻すときは、もう1度FM MODEを押します。

放送局を記憶させる ―プリセット

FM/AM放送局を、合計30局まで記憶させることができます。よく聞く放送局を登録しておけば簡単に選局できます。

1 TUNERを押す

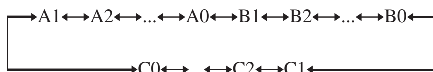
2 登録したい放送局を、手動（32ページ）または自動（32ページ）で受信する

3 MEMORYを押す

表示窓に「MEMORY」が数秒間表示されます。表示が消える前に手順4を行ってください。

4 PRESET＋/－を押して、プリセット番号を選ぶ

押すたびに、次のようにプリセット番号が変わります。



プリセット番号を選ぶ前に「MEMORY」表示が消えたときは、手順3からやり直してください。

5 もう1度MEMORYを押して、放送局を登録する

放送局を登録する前に「MEMORY」表示が消えたときは、手順3からやり直してください。

他の放送局を登録するときは

手順2～5を繰り返します。

次のページへ続く

プリセット番号をほかの放送局に変更するときは

手順1～5を行って、他の放送局を登録してください。

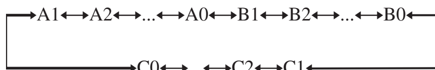
登録した放送局を呼び出す

プリセットした放送局を探す方法と、プリセット番号で直接選局する方法があります。

登録した放送局を探す

1 TUNERを押す。

2 PRESET＋/－を押して、プリセット番号を選ぶ。
押すたびに、次のようにプリセット局を探します。



プリセット番号で直接選局する

1 TUNERを押す。

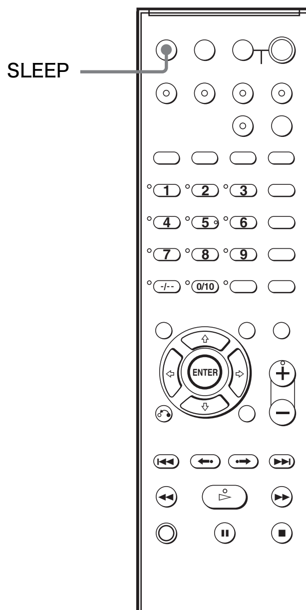
2 SHIFTを押してメモリーページ（A、BまたはC）を選び、数字ボタンで聞きたい放送局のプリセット番号を入力する。

ちょっと一言

本体のPRESET TUNING＋/－でも登録した放送局を選べます。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経つと、本体の電源を自動的にオフにすることができます。電源が切れるまでの時間は、2時間後から30分後まで、30分単位で設定できます。



SLEEPを押す

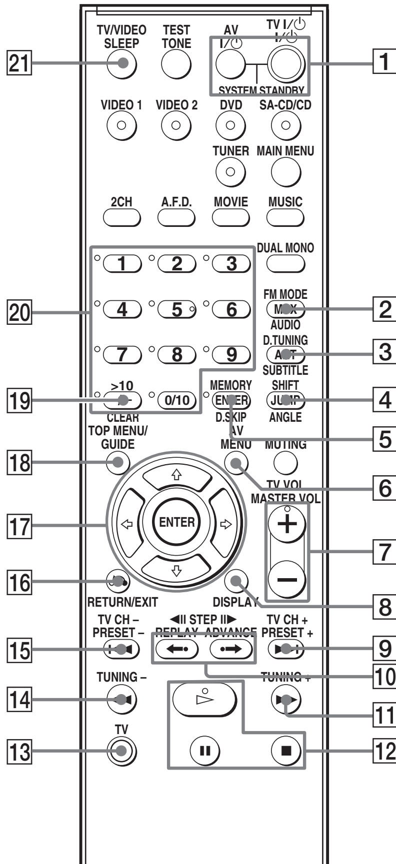
押すたびに時間が次のように変わり、しばらくすると元の表示に戻ります。
2-00-00 → 1-30-00 → 1-00-00 → 0-30-00 → OFF
スリープタイマーが働いているときは、SLEEPが点灯します。

ちょっと一言

- 本体の電源が切れるまでの残り時間を確認するには、SLEEPを押します。表示窓に残り時間が表示されます。
- スリープタイマーを解除するには、SLEEPを押してOFFを選びます。

リモコンでソニー製の他機を操作する

本機のリモコンで、他のソニー製機器のみを操作することができます。



共通操作ボタン

リモコンのボタン	機能
1 AV I/⏻	オーディオ/ビデオ機器の電源をオン/オフする
1 SYSTEM STANDBY	I/⏻を押しながらAV I/⏻を押す。本機とソニー製オーディオ/ビデオ機器の電源を切る

DVDレコーダーやDVDプレーヤーを操作する

リモコンのボタン	機能
2 AUDIO	音声を選ぶ（マルチ、バイリンガル）
3 SUB TITLE	字幕を選ぶ
4 ANGLE	アングルを選ぶ
5 D.SKIP	ディスクをスキップする（チェンジャーのみ）
6 AV MENU	メニューを表示する
8 DISPLAY	テレビ画面に出る表示を選ぶ
9 15 ⏮/⏭	前/次のチャプターを頭出しする
10 ◀II STEP II▶ REPLAY ←• / ADVANCE •→	前の画面を再生する。または今の画面を早送りする
11 14 ◀◀/▶▶	今のチャプターを早戻し/早送りする
12 再生モードボタン	▷（再生)/II（一時停止）/■（停止）
16 RETURN ↶/ EXIT	前のメニューに戻る
17 ↑/↓/←/→/ ENTER	メニュー項目を選び、真ん中を押し込んで確定する
18 TOP MENU	DVDのタイトルを表示する
19 CLEAR	数字ボタンを使って入力した数字をクリアする、または、ふつうの再生に戻す
20 数字ボタン 0/10	トラック番号を選ぶ。0/10を押すと10が入力される

次のページへ続く

テレビを操作する

リモコンのボタン	機能
1 TV I/⏻*	テレビの電源を入/切する
5 ENTER*	チャンネル番号（12）を選ぶ。
7 TV VOL +/−*	テレビの音量を調節する
9 15 TV CH +/−*	テレビのチャンネルを選ぶ
13 TV	オレンジ色で書かれたテレビ用のボタンの機能を使うときに押す
20 数字ボタン* 0/10	チャンネル番号（1-9）を選ぶ。0/10を押すと、10が入力される
21 TV/VIDEO*	入力信号を選ぶ（テレビまたはビデオ入力）

＊ 13 TVを押しながら操作します。

衛星放送チューナーを操作する

リモコンのボタン	機能
2 AUDIO	音声を選ぶ（マルチ、バイリンガル）
3 ANT	サテライト選択
4 JUMP	前のチャンネルと今のチャンネルを切り換える
5 ENTER	数字ボタンを使ってチャンネルやディスク、トラックを選択した後、決定ボタンを押して、数値を入力する
6 AV MENU	メニューを表示する
9 15 PRESET +/−	プリセットチャンネルを選ぶ
16 EXIT	メニュー設定を中止する
17 ↑/↓/←/→/ ENTER	メニュー項目を選び、真ん中を押し込んで確定する
18 GUIDE	ガイド画面を表示する
19 CLEAR	数字ボタンを使って入力した数字をクリアする
20 数字ボタン 0/10	チャンネル番号を入力する

ビデオデッキを操作する

リモコンのボタン	機能
2 MPX	音声を選ぶ（マルチ、バイリンガル）
3 ANT	ビデオのアンテナ端子からの出力信号を選ぶ（テレビまたはビデオ信号）
5 ENTER	数字ボタンを使ってチャンネルやディスク、トラックを選択した後、決定ボタンを押して、数値を入力する
8 DISPLAY	テレビ画面に出る表示を選ぶ
9 15 PRESET +/−	プリセットチャンネルを選ぶ
11 14 ◀◀/▶▶	早送り/早戻しする
12 再生モードボタン	▷（再生)/❚❚（一時停止）/■（停止）
17 ↑/↓/←/→/ ENTER	メニュー項目を選び、真ん中を押し込んで確定する
20 数字ボタン	チャンネル番号を選ぶ

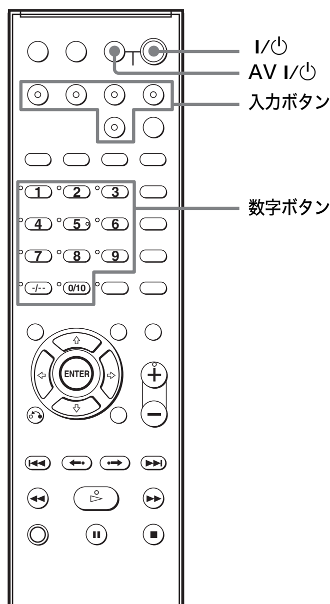
オーディオ機器を操作する

リモコンのボタン	機能
5 D.SKIP	ディスクをスキップする（チェンジャーのみ）
8 DISPLAY	オーディオ機器の表示窓の表示を変える
9 15 ⏮/⏭	トラックを戻す/進める
11 14 ◀◀/▶▶	早送り/早戻しする
12 再生モードボタン	▷（再生)/❚❚（一時停止）/■（停止）
20 数字ボタン 0/10	トラック番号を選ぶ。0/10を押すと10が入力される
>10	10以上のトラック番号を選ぶ

ご注意

- 機能の説明は、例としてあげています。機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。
- VIDEO1、VIDEO2、DVDなどの入力ボタンを押したとき、TVの入力モードが正しい入力モードに切り換わらないことがあります。その場合、TV/VIDEOを押して、テレビの入力を切り換えてください。
- オレンジ色でかかれたボタンを使うときは、TVボタンと使いたいボタンを同時に押します。
- 他社製の機器は操作できません。

リモコンの入力ボタンの設定を変える



リモコンの入力ボタンは、お買い上げ時の設定では以下の機器に割り当てられています。

入力ボタン	設定
VIDEO1	ビデオデッキ（VTRモード3*）
VIDEO2	テレビ、デジタルチューナー
DVD	DVDプレーヤー
SA-CD/CD	スーパーオーディオCD、CDプレーヤー
TUNER	チューナー

* ソニー製VHSビデオデッキ向け。

実際にお使いの機器に合わせて、付属のリモコンの入力ボタンの設定を変えることができます。例えば、CDプレーヤーを持っていて、DVDプレーヤーを持っていない場合には、DVDボタンにCDプレーヤーを割り当てることができます。

次のページへ続く

設定を変えたい入力ボタン（例：DVD）を押したまま、その入力ボタンに割り当てたい機器の数字ボタンを押す（例：5-CDプレーヤー）

機器を選ぶボタンは以下のように設定されています。

操作する機器	押すボタン
ビデオデッキ（VTRモード3*)	1
ビデオデッキ（VTRモード2*)	2
DVDプレーヤー、DVDレコーダー（DVDモード1）	3
DVDレコーダー（DVDモード3）	4
CDプレーヤー	5
チューナー	8
デジタルサテライトチューナー	9
デジタルCSチューナー	0/10
BSデジタルチューナー	-/--

* ソニー製ビデオデッキはVTR2または3の設定で使用できます。これらはそれぞれ8ミリ、VHSに対応します。

すべての入力ボタンの設定をお買い上げ時の状態に戻すには

リモコンのMASTER VOLー、I/⏻、TEST TONEを同時に押す。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいときは、修理に出す前にこのページを見てもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。
修理の際は、すべてのシステムが必要になることがあります。
サラウンドスピーカー（L）の修理の際は、ワイヤレス通信機能も修理対象となることがあるため、本体アンプと発光ユニットもお持ちください。

共通

症状	原因と対応のしかた
ハム音またはノイズがひどい	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。 ➔ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 ➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない	➔ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。 ➔ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力（デジタル音声出力）の設定を確認する。 ➔ DVDプレーヤー側で、音声を正しく選んでいるか確認する（DVDメニューの音声設定を確認する）。
サラウンド効果が得られない	➔ 本体のSOUND FIELDやリモコンのMOVIE、MUSICを押して、選ばれているサウンドフィールドを確認する（23ページ）。 ➔ DTS 96/24などのソースを入力した場合、サウンドフィールド、トーンは設定できません。
片方のフロントスピーカーから音が出ない	➔ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 ➔ 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ LEVELメニューで、各スピーカーのバランスを調節する（29ページ）。
センタースピーカーから音が出ない	➔ 本体のSOUND FIELDやリモコンのMOVIE、MUSICを押して、選ばれているサウンドフィールドを確認する（23ページ）。 ➔ ディスクによって、センタースピーカーから音が出ないものもあります。 ➔ 各スピーカーの音量（LEVEL）を調節する（29ページ）。
サブウーファーの音が聞こえない	➔ サブウーファーが正しく接続されているか確認する。

次のページへ続く

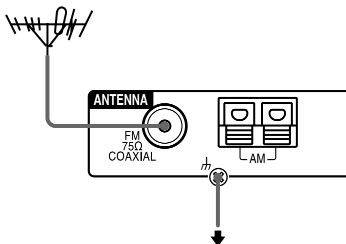
サラウンドスピーカー

症状	原因と対応のしかた
サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	➔ 本体のSOUND FIELDやリモコンのMOVIE、MUSICを押して、選ばれているサウンドフィールドを確認する（23ページ）。 ➔ DUAL MONOを押してデジタル放送のMPEG-2 AACの設定を確認する（26ページ）。 ➔ シネマスタジオEXを選ぶ（24ページ）。 ➔ ソースによってはソフトの音声効果上、サラウンド側の音が小さく記録されているものもあります。 ➔ サラウンドスピーカーの設定を確認する（27ページ）。 ➔ プラズマテレビをお使いの場合は、発光ユニットをテレビから離すなど、位置を調整する。 ➔ サラウンドスピーカー（L）は直射日光や照明など強い光の当たる場所には置かない。 ➔ サラウンドスピーカー（L）の受光部と発光ユニットの発光部の汚れを取る。
サラウンドスピーカー（L）のPOWER/ON LINEランプが赤色に点滅する	➔ 他のワイヤレスシステムと離す。 ➔ 発光ユニットをサラウンドスピーカー（L）の受光部に向ける（17ページ）。

つないだ機器

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 ➔ MASTER VOLUMEが「VOL MIN」になっていないか確認する。 ➔ MUTINGを押して、ミュート機能を解除する。 ➔ 保護回路が働いている（「PROTECT」が点滅する）。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。
選んだ機器から音が出ない	➔ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 ➔ 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。 ➔ 本機で正しく機器を選んだか確認する。
テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない	➔ テレビの入力モードを確認する。 ➔ テレビをオーディオ機器から離す。

ラジオ

症状	原因と対応のしかた
放送局が受信できない	➔ アンテナが正しく接続されているか確認する。 ➔ アンテナの向きなどを調節する。 ➔ 屋外アンテナを使用する。 ➔ 手動で受信する。 ➔（プリセット受信の場合）何も登録されていない、または登録を消してしまった場合は、放送局を登録する（33ページ）。
FMの受信状態がよくない	➔ 市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本体と屋外アンテナをつなぐ。  アース線をつなぐときは、市販のビニール電線をアース端子（⏚）につなぎ、もう一方の端を銅製の棒につないで地中に埋める。ガス管につなぐのは危険です。絶対におやめください。

その他

症状	原因と対応のしかた
リモコンで操作できない	➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 ➔ リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 ➔ リモコンの乾電池を交換する。 ➔ リモコンで正しい入力を選んだか確認する。 ➔ オレンジ色で書かれたボタンの機能を使うときは、TVボタンと同時に押してください。 ➔ 本体の操作をするために↑/↓/←/→を使うときは、先にMAIN MENUを押してください。他機の操作をするために使うときは、先に入力ボタンを押し、TOP MENU/GUIDEまたはAV MENUを押してください。 ➔ ソニー製の機器のみ操作できます。

その他

次のページへ続く

本機のメモリーをクリアするには

本体のI/⏻（電源スイッチ）を押して、本体の電源を切る。
もう一度、本体のI/⏻（電源スイッチ）を約5秒間押したままにする。
「INITIAL」が表示され、本機は初期設定状態（リセット）になります。
初期設定状態について詳しくは、「本機を初期設定状態にする」（20ページ）をご覧ください。

サウンドフィールドをお買い上げ時の設定に戻すには

本体のI/⏻（電源スイッチ）を押して、本体の電源を切る。
本体のSOUND FIELDを押しながら、本体のI/⏻（電源スイッチ）を押す。
「SF.CLR.」が表示され、すべてのサウンドフィールドがお買い上げ時の設定に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ
お買い上げ店、または同梱の「ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について
この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：HT-SL800W
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

本体（STR-K800W）

ステレオモード：　86 W + 86 W
（4 Ω、1 kHz、JEITA[1]）

サラウンドモード：
- フロント部[2]：　86 W/チャンネル
- センター部[2]：　86 W
- サブウーファー部[2]：　86 W
（4 Ω、1 kHz、JEITA[1]）

サラウンドスピーカー（L）（SA-TS22W）
- サラウンド部：　86 W/チャンネル

[1] JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です

[2] サウンドフィールドの設定によっては出力がない場合があります

入力（アナログ）

SA-CD/CD、VIDEO1、2
入力感度：1 V
インピーダンス：50 kΩ

入力（デジタル）

DVD（同軸）　インピーダンス：75 Ω

SA-CD/CD、VIDEO2（光）
インピーダンス：－

周波数特性	28 Hz～20 kHz
トーン	±6 dB、1 dBステップ

FMチューナー部

受信周波数	76.0～90.0 MHz
アンテナ	75 Ω、不平衡型
中間周波数	10.7 MHz
感度	
モノ：	新IHF：18.3 dBf IHF：2.2 µV/75 Ω
ステレオ：	新IHF：38.3 dBf IHF：22.5 µV/75 Ω
実用感度	新IHF：11.2 dBf IHF：1 µV/75 Ω
S/N	
モノ：	76 dB
ステレオ：	70 dB
高調波ひずみ率	
モノ：	0.3 %
ステレオ：	0.5 %
ステレオ分離度	45 dB（1 kHz）
周波数特性	30 Hz～15 kHz （＋0.5/－2 dB）
実効選択度	60 dB （400 kHz）

AMチューナー部

受信周波数	531 kHz～1,602 kHz
アンテナ	ループアンテナ
中間周波数	450 kHz
実用感度	50 dB/m（999 kHz）
S/N	54 dB（50 mV/m）
高調波ひずみ率	0.5 %（50 mV/m、400 Hz）

スピーカー部

フロント/サラウンド（R）スピーカー（SS-TS21）

形式	2ウェイバスレフ型
使用スピーカー	コーン型70 mm、バランスドーム型25 mm
定格インピーダンス	4 Ω
最大外形寸法（幅/高さ/奥行き）	255×1,112×255 mm
質量	約 4.1 kg

センタースピーカー（SS-CT33）

形式	2ウェイバスレフ型
使用スピーカー	コーン型70 mm、バランスドーム型25 mm
定格インピーダンス	4 Ω
最大外形寸法（幅/高さ/奥行き）	356×92×76 mm
質量	約 0.95 kg

サラウンド（L）スピーカー（SA-TS22W）

形式	2ウェイバスレフ型
使用スピーカー	コーン型70 mm、バランスドーム型25 mm
定格インピーダンス	4 Ω
最大外形寸法（幅/高さ/奥行き）	255×1,112×255 mm
質量	約 5.0 kg

サブウーファー（SS-WMSP600）

形式	バスレフ型、防磁形
使用スピーカー	160 mm、コーン型
最大外形寸法 （幅/高さ/奥行き）	
	200×379×335 mm
質量	約 6.0 kg

本体

電源	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	70 W
	スタンバイ時：0.3 W
最大外形寸法（幅/高さ/奥行き）	
	430 × 64 × 337 mm
質量	約 3.3 kg

サラウンド（L）スピーカー

電源	AC100 V、50/60 Hz
消費電力	20 W

付属品

9ページをご覧ください。

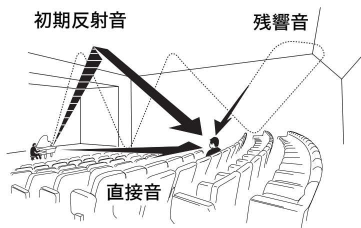
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語解説

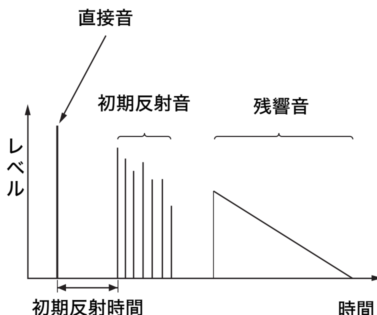
サラウンドサウンド

直接音、初期反射音および残響音の3要素で構成されているサラウンドです。音を聞いている場所の音響効果は、この3つの音の要素の聞こえかたによります。これらの音の要素で、コンサートホールの広さや環境を実際に感じることができます。

音の種別



サラウンドスピーカーからのサウンドの遷移



ダイナミックレンジ（Dynamic Range）

音声信号の再現能力を示した数値のことです。最小値と最大値の比率を指し、単位はdB（デシベル）で表示します。この比率が高いほど、再生できる音域は広く、原音に近い音質が楽しめます。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）

ドルビープロロジックをさらに発展させ劇場用に開発された映画の音のフォーマットです。サラウンド出力をステレオ化した上で周

次のページへ続く

波数帯域を拡大、さらに低域を受け持つサブウーファー出力も独立して設けてあります。サブウーファーは、重低音が必要なときだけ出力するので0.1chと数えられるため、「5.1ch」と呼ばれます。あらかじめ5.1チャンネルが分離された状態で記録されており、チャンネル間のセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、劣化しにくいという特長を持っています。
DVDの標準音声フォーマットに採用されており、5.1chサラウンドとも呼ばれます。ドルビーサラウンドよりも、さらにリアルな臨場感を再現します。

ドルビーサラウンド（プロロジック）

ステレオ2chの中に、センタースピーカー、サラウンドスピーカーの音を合成し、再生時にデコーダーでフロントL/Rと共に4chで出力します。

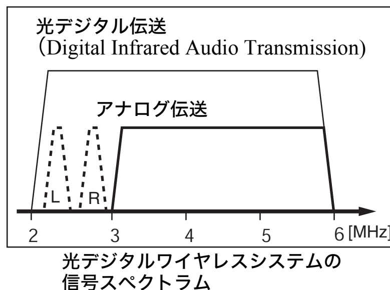
ドルビープロロジックII

ステレオ2チャンネルの中に、センター、サラウンドの音を合成し、再生時にフロントL/Rと共に4チャンネルで出力する、DVDの音声ではもっとも一般的な音声処理技術です。

- DOLBY PL (ドルビープロロジック)
  フロント、センターの再生帯域は20～20KHz。サラウンドチャンネルはモノラルで再生帯域は100～7KHzの4チャンネル構成です。正しいサラウンド効果を得るためにはドルビーサラウンドエンコードされた音源が前提です。
- PLIIMOVIE (ドルビープロロジックIIムービー)
  あらゆるステレオ音源を5.1チャンネルに拡張再生します。映画音声の再生に適した定位感をもつように設定されており、サラウンドチャンネルのステレオ化をふくめ、全チャンネル20～20KHzの広帯域となっています。
- PLIIMUSIC (ドルビープロロジックIIミュージック)
  音楽再生に適した5.1チャンネル拡張再生で、サラウンドチャンネルは定位感よりも包囲感が得られるよう設定されています。サラウンドチャンネルのステレオ化をふくめ、全チャンネル20～20KHzの広帯域となっています。

光デジタルワイヤレス（Digital Infrared Audio Transmission）

昨今、DVDやデジタル放送等の高品質なメディアが急激に普及しつつあります。このような高品質なメディアによってもたらされた微妙なニュアンスを劣化することなく伝送するため、HT-SL800Wではデジタルオーディオ信号を非圧縮で赤外線伝送する技術、「Digital Infrared Audio Transmission」を開発、導入しました。
この技術はIEC（国際電気標準会議）およびJEITA（電子情報技術産業協会）でHi-Fiオーディオ伝送用として割り当てられている副搬送波周波数帯域内で、デジタルオーディオ信号を非圧縮で伝送することが可能です。



光デジタルワイヤレスシステムの信号スペクトラム

AAC (Advanced Audio Coding)

BSデジタル/地上デジタル放送で、標準音声フォーマットに採用されたサラウンド方式です。映像圧縮規格であるMPEG2、またMPEG4でも採用された、音楽CD並みの高音質を実現した音声圧縮方法のひとつです。
AACMPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）はMPEG（Moving Picture Experts Group）が開発した、MPEG-2オーディオ標準方式の中の一つで、マルチチャンネル音声再生を可能とするフォーマットです。

A.F.D.（Auto Format Direct）

入力された音声信号を自動的に判別し、適切な処理を行うプログラムです。録音、またはエンコードされたままの音を、残響などの効果を加えず、原音に忠実に再現します。

DCS（Digital Cinema Sound）

映画館での迫力あるサウンドをご家庭でも楽しんでいただくために、ソニーが開発した音響再現技術です。DSP（デジタルシグナルプロセッサ）と計測データを結合して開発されたこのデジタルシネマサウンドは、ご家庭でも映画館のような音場を体感していただけます。

DTSサラウンド

Digital Theater System社が開発した、映画館向けの音声デジタル圧縮技術です。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率で記録するため、より高音質で再生することができます。

L.F.E.（Low Frequency Effect）

ドルビーデジタルやDTSなどで、サブウーファーから出力される低域効果音のことです。帯域内が20Hz～120Hzの重低音を補助的に出力することで、音響に迫力が加わります。

S-Master

ソニーが開発したデジタルアンプの名称です。電力効率が良く、発熱も少ないため、小型化と高音質での再生を実現しました。

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル ………… 0570-00-3311

（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は…03-5448-3311

（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX ……………………… 0466-31-2595

受付時間　：月～金 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00

お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia